

専門学校関東工業自動車大学校

# 学校関係者評価 報告書

【令和4年度版】

令和5年6月

学校関係者評価委員会

## 1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・企業等役職員等の学校関係者を選任し学校が実施した令和1年度における自己点検評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。

なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

## 2. 学校関係者評価委員会の実施

令和3年度の自己点検報告書をもとに、学校関係者委員会を開催し、ご意見・ご提案を頂いた。また、学外委員の皆様には基準項目毎に5段階で評価頂き、その結果も含め報告書としてまとめた。

第一回 開催日：令和5年6月21日(水)13:00～15:00

場 所：関東工業自動車大学校 校長室

## 3. 学校関係者評価委員会出席者(敬称略・順不同)

### ①評価委員

- ・泰楽 秀一：協会 埼玉県自動車車体整備協同組合
- ・中島 雄大：企業等 ㈱スズキ自販埼玉
- ・関口 秀生：卒業生 ㈱関口工業所 社長
- ・関根 哲男：地 域 寮主

### ②学校側出席者

- ・加瀬 正樹：教頭
- ・青木 隆正：教務部マネージャ
- ・小川 淳：教務部マネージャ
- ・合津 正彦：事務局マネージャ

4. 学校関係者意見・提案(評価点)

※評価については4点を適切とし、不足の要因を減点方法にてあらわしている。

評価項目	現状の取組	評価	今後の改善方法(改善内容)
教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育理念や目的・育成人物像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践についてもおおむね満足できる取組がなされている。</li> <li>・日々変化してゆく企業ニーズに対応するべくカリキュラム編成等が適切に構築されている。</li> </ul>	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生が将来進む業界から、社会人として基礎教育(ソーシヤルマナー)が身につけているといわれるような教育の充実を引き続きお願いしたい。</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営方針や事業計画については明確に定められている。</li> <li>・設置法人や学校そのものの運営は寄附行為や規定類により適切に運営されている。</li> <li>・教職員の働きやすい環境整備に取り組んでいる</li> </ul>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校見学、体験授業などにおいて、実習棟、教材車両等は他校と見た目において比較されやすいので、可能な範囲で見栄えの良いように充実をお願いしたい。</li> </ul>
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の設定や編成及び成績評価の仕組みについては、おおむね満足できる水準に達している。</li> <li>・対面授業への環境づくりについて評価できる水準である。</li> <li>・実践的な職業教育についても後援会企業を軸に就職内定企業を巻き込み体系付けがされていく評価できる水準である。</li> </ul>	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の意見を活用し教育内容の見直しをするとともに、指導する教員への研修も積極的に参加していただきたい。</li> <li>・後援会の企業を軸に早目の打合せを行うことで、連携授業を今よりも多く実施できるように運んでいただきたい。</li> <li>・コロナ対策は今後も注意を払いながら継続してゆく</li> </ul>
学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり学習成果が業界のニーズに結びついていることが窺える。</li> <li>・資格取得率については概ね評価できる水準である。</li> <li>・卒業生の動向調査については今までに比べ格段と実施できていると評価する。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と学生との面談時間をしっかりととり、メンタルの状態・到達度の状況を確認し、学年マネージャが掌握する。</li> <li>・学生及び教職員は常にコンプライアンスを意識した行動ができるように指導していただきたい。</li> <li>・同窓会をさらに活発にすることにより、卒業生の実態を確認するとともに、学生募集等にも活用していただきたい。</li> </ul>

評価項目	現状の取組	評価	今後の改善方法 (改善内容)
学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職体制、経済的支援、健康管理及び中学・高校等との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。</li> <li>・退学者の減少が図られたことは、教員を中心とする学生への対応力及び内容が向上したことであり、評価できる。</li> <li>・就職活動前の夏休みに、1日企業体験を実施し企業への認識を高めるとともに就職へのギャップを減少させていることは評価できる。</li> </ul>	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後援企業に対し、経済的支援を継続的に依頼し協力を得て頂きたい。</li> <li>・学生は、学ぶ責任をさらに意識できるようにしていただき、教職員は、育てる責任を意識して活動していただきたい。</li> <li>・企業説明会を1年生の早期より実施してみたいかがか検討していただきたい。</li> </ul>
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後援企業との連携により、教材の補充及び教育資料の充実が図れた</li> <li>・対面授業への環境づくりを進められた</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位をつけて、設備・施設・教材の改修を実施していただきたい。</li> <li>・災害時の緊急連絡システムの検討をお願いしたい。</li> </ul>
学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動に関しましては、コンプライアンス上は適切に運営が行われている。</li> <li>・ホームページに学園生活およびYouTube が掲載されることはとても良いことと思われる。</li> <li>・国際サービスマニエラ科の学生希望者が増加していることはとても良いことである。</li> </ul>	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を継続・改善してゆく必要がある。</li> <li>・国際サービスマニエラ科の教育内容の精査と受入学生のレベルについての検討をお願いしたい。</li> </ul>
財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員が充足できていない現状から経費節減の対策を今後とも努力する必要がある。</li> <li>・消費税率のアップから経費が上がるため、学費の値上げも検討してみたいかがか。</li> </ul>
法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理などを含め、常に教職員に自覚・周知徹底を図っている姿勢から法令遵守等はおおむね満足できる水準に達している。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も多様化する関連の法令、ルール等についても現状に留まることなくさらに高い意識を持つるように努力する必要がある。</li> </ul>

<p>社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、地元の町内会の活動、及び地域の子供たちを対象とした行事へのスタッフの派遣や施設の提供について非常に感謝されている。</li> <li>・鴻巣市及び商工会と連携して本校の教育成果を共有できていることは評価に値する</li> </ul>	<p>3.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鴻巣市はもとより、地元地域の方々の行事等についてもタイアップをしてゆきたい。</li> </ul>
<p>国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れについては良いが、日本語力向上のための勉強会、学生の退学防止についてはまだまだ改善の余地が残っている。</li> <li>・留学生と日本人学生との交流を図ることにより、国際的見聞を広める機会を提供してゆく。</li> </ul>	<p>2.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語力向上の教育を早急に改善してゆく。また、学生の退学防止策を力強く推進する必要がある。</li> <li>・生活基盤の安定を図るための教育を関係方面の協力を得ながら進めることを検討してほしい。</li> </ul>